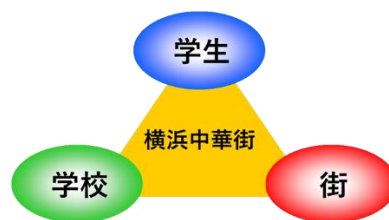




報道関係者各位

2022 年 10 月 6 日
横浜中華街発展会協同組合
理事長 高橋 伸昌

横浜中華街が学生と一緒に街づくり 「未来と一緒に未来をつくる」プロジェクト



横浜中華街と横浜地域の発展のために活動する横浜中華街発展会協同組合（以下、「中華街発展会」）では、学生の力をかりてファンを増やし一緒に横浜中華街のブランド力を向上させるプロジェクト「未来と一緒に未来をつくる」を立ち上げ、学生と一緒に街づくりに取り組んでいます。

街の中にいると自分たちの良い所も悪い所もなかなか気付かず、改善と成長の機会を逃してしまうことがしばしばです。消費者目線での街の良い所や悪い所を知り、気付きや学びを得る中で、街の未来をより明るくしていきたいと、昨年度、関東学院大学と横浜市立大学の 2 つの大学とトライアル実施を行い、大きな成果を得て、本年度から本格的に取り組んでいます。

本プロジェクトの特徴は、「未来の消費者の目線」を取り入れることです。学生は、近い「未来」を作っていく存在です。一緒に考え、時には一緒に街づくりに取り組むことで、未来の横浜中華街のファンを育てるだけでなく、彼ら/彼女らの視点を街に取り入れられることで、中華の文化伝統を大切に守りながら、時代に即した成長を遂げられる街になる一助になると考えています。そして、学校と学生にとっては、街（横浜中華街）が全面協力することで、フィールドワークやプレゼンテーションなど、場所と機会の 2 つの学びの機会となり、街としても地域へ恩返しに繋がると思っています。昨年度のトライアル実施においても、学生から提案された企画や気付きは、既に実際の街づくりに反映されており、目に見えて生かされることも大きな特徴です。また、横浜中華街が Hub となり、学校間の交流が生まれ、今年度は関東学院大学と横浜市立大学の両校の学生が組んで一緒に進めていく企画も誕生するなど、好循環の輪が拡がり、喜びを感じています。

社会に出ると、自らが生活する地域において、地域の一員である認識をもって生きていくことはとても重要なことだと考えます。そこでは、幅広い世代と交流し、地域の課題に



関心を持ち、その改善に役立つ知識やスキルが必要です。学生のうちにそのことを知り、体験で知るとは、学生自身にとっても大きな経験となると思います。また、学校という教育機関そのものが、その社会的責任を果たすために、積極的に地域に貢献し、共生することは欠かせないことです。そして、その学び場と機会を横浜中華街は提供したいと思っています。

今年度は既出の 2 大学との活動を深めるとともに、横浜の他の大学との連携も検討をしていく予定です。「未来」と一緒に作る「横浜中華街の未来」を是非応援ください。

<昨年度の取り組み紹介（2 大学とトライアル実施）>

2021 年秋～冬、この最初の取り組みを、関東学院大学と横浜市立大学の 2 つの大学と実施しました。関東学院大学は、2023 年 4 月から関内に新キャンパスができます。その新キャンパスに移る 3 つの学部 69 チームが「横浜中華街を 100 倍面白くする！横浜中華街のファン拡大のための企画を考える」取り組みを、横浜市立大学とは、国際商学部（マーケティング・公会計）と国際教養学部（観光政策・社会福祉）の 4 つのゼミの 44 名が「横浜中華街のファンを増やすアイデアを考える」取り組みを、実施しました。

実施方法や内容は、それぞれ異なりますが、コロナ禍も 2 年目となり大学に通える機会も増えてきましたが、感染拡大状況に応じてオンラインでの実施も多く、近年の教育で大切にされている実学の機会や、学生同士/学生と社会とのコミュニケーションの機会が減ってしまったことは、両大学とも共通の悩みであり、今回の取り組みは学生に学びの場を提供する良い機会となりました。



（関東学院大学 学生質問会）



（横浜市立大学・座談会）

関東学院大学との取り組み

第 5 回 K-biz アクティブ・チャレンジ 2021

「横浜中華街を 100 倍面白くする！横浜中華街のファン拡大のための企画を考える」

関東学院大学とは、経営学部が 2017 年に実践的な経営感覚を養うことを目標に新設した k-biz アクティブ・チャレンジという学生が個人あるいはチームで参加して企画提案をまとめ、その優劣を競い合うコンペティションとして行いました。2023 年度 4 月に横浜・関内



キャンパスに移る「経営学部」「法学部」「人間共生学部」の3つの学部を対象に、計69チームからエントリーがあり、最終選考で11チームが選ばれました。本来「K-biz」は経営学部のみが対象ですが、率先して地域と交流を図ることで、学生が地域に馴染み、より勉学に励みやすい環境提供の一助になればと、横浜中華街プロジェクトにおいては、対象学部を3学部に広げました。

●2021年10月：中華街発展会理事長によるオンラインオリエンテーション

3つの学部の学生に、横浜中華街の歴史やブランドビジョン、コロナ禍での取り組みなどを講義しました。



関東学院大学 経営学部
K-biz 第5回アクティブ・チャレンジ
「横浜中華街ってどんなところ？」

2021年10月13日
横浜中華街発展会協同組合 理事長 高橋 伸晶

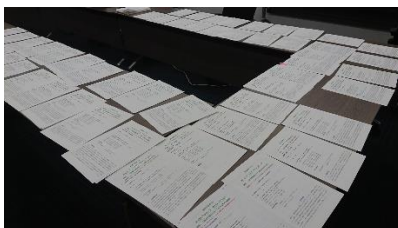
●2021年11月：フィールドワーク

学生たちが実際に中華街に来て、どんな企画が提案できるか考えてもらいました。授業の合間ぬって何度も足を運ぶ学生や、他の中華街も知るべきだと神戸・南京町まで行った学生もいるなど、皆とても意欲的でした。



●2021年12月：第一次審査

69チームから提案された企画を、「イノベーション」「説得力」「実現可能性」「社会的意義」「プレゼンテーション」の5つの採点指標に基づき、関東学院大学・オブザーバーの三菱UFJ銀行横浜支店・横浜中華街がそれぞれ採点し、協議の末30チームが最終選考会に進みました。



(エントリーされた企画案)

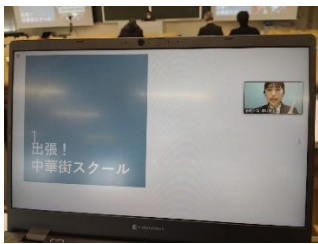


(協議の様子)



●2022 年 2 月：最終選考会

2 月 9 日、関東学院大学にて最終選考会が開かれ、11 チームが選ばれました。本来は大学の講堂に皆が集まり実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大学には審査員と関係者のみ集まり、学生はオンラインにてプレゼンテーションを行う形となりました。最終的に 11 チームが選ばれましたが、最終選考会に進めなかった企画案を含め、多くの気付きがありました。提案された企画は発展会で実施検討をするとともに、すぐにできる改善は早速取り入れ、街づくりに生かされています。



(左：オンラインプレゼン)

(右：中華街発展会審査員（理事長、武松副理事長、石河専務理事（元副理事長））

最終選考 11 チーム

- ・最優秀賞 まなべる（中華街まるごと学校プロジェクト）
- ・優秀賞 F-608（TICKEP 横浜中華街）、チーム NIKUDANGO（AR 集客プロモーション）、美丽(浜)の健康屋中華街）
- ・学長賞 ニックまん親衛隊（中華街夢の街化計画）、R.L.Y（赤レンガ横浜中華街フェス&横浜中華街テイスティングビンゴ）、チーム小川（デジタル中華街マップ）
- ・横浜中華街ブランド向上賞 お疲れ様チーム（横浜中華街横丁）、理事長バンダさん（中華街テーマパーク）
- ・金融サービス部門賞 小籠包（横浜中華街アプリと地域コイン）

関東学院大学・小山学長のメッセージ

新型コロナウイルス感染症によって、社会の中に潜んでいた膨大な「課題」が浮き彫りになりました。これからの人材に求められるのは、この不確実性の高い時代において、自ら「問い」を立て、多様な人たちと協働しながら課題解決に挑戦していける力です。関東学院大学ではこうした人材育成のため「社会連携教育」を推進しています。「社会連携教育」では、教室で学ぶ「理論」に加え、実社会での「実践」を組み込むことにより、学生に気づきを誘発し、学習効果を高めることができます。また、実践を通して企業や自治体などと連携することで、多様な人と協働するために必要な素養を身につけていきます。

関東学院大学はキリスト教の精神に基づく教育をおこなっており、校訓「人になれ 奉仕せよ」は長年にわたって継承されています。人のため、社会のため、人類のために尽くすこ



とによって自らの人格を磨くことを大切にしています。本プロジェクトは関内キャンパスに移転する経営・法・人間共生学部が参加し、身近な地域社会の発展に取り組むことができる貴重な機会になることを期待しています。未来を担う若い世代の新しい発想で横浜中華街の活性化と発展にお役に立てればと思います。

横浜市立大学との取り組み

横浜中華街のファンづくり「ヨコイチ×横浜中華街プロジェクト」

国際商学部、国際教養学部から4つの分野の異なる研究室の学生たち44名と教員4名が、「ヨコイチ×横浜中華街プロジェクト」を立ち上げ、それぞれの研究分野を活かした視点から、横浜の観光としても有名な横浜中華街のさらなる発展のための企画・提案を行い、共にファンづくりを目指します。

●2021年11月：横浜中華街散策（フィールドワーク）

散策費（5,000円）で、学生が個別に横浜中華街マップを持って発展会組合員の店舗を利用し、好きなように横浜中華街を散策。（非組合員店舗、コンビニ除く）散策の記録（気づいた点、嫌なこと、変えてもらいたいこと、伸ばしてほしいこと等）、写真などをとる。出来るだけ多くの視点を得るため、グループで行く場合は4名以内。個人、少人数推奨。



●2021年12月：座談会

学生がどんな楽しみ方をしたか、何を感じたか、中華街をどうみたかを知る。また、発展会理事からの目線やアドバイスを通して多角的に理解を深める。ゼミ（学生4～8名）単位での実施。ゼミの教員がファシリテーター（聞き手）として進行し、発展会理事は座談会に参加し、学生と一緒に考える。学生による事前フィールドワークのメモや、ホワイトボードを使用した「連想ゲーム」を行い、可視化しながらキーワードを拾っていく。





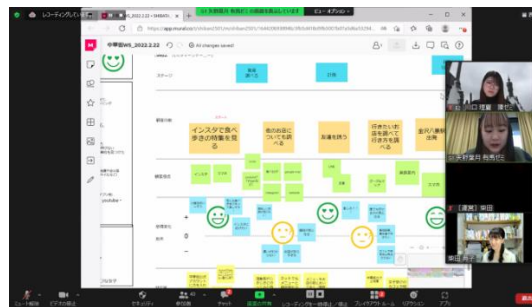
●2022 年 1 月：理事長の講演

横浜中華街の歴史とブランドビジョン、現在、課題、今後の展望等について講演しました。



●2022 年 2 月：ワークショップと提案

コロナ禍のため、オンラインで実施。「横浜中華街のファンづくり」に向けて、学生が中華街と一緒にできる事って何だろう？」4ゼミ混合の10グループを作り、ワークショップ形式で企画/アイデアを考え、その場で発表。中華街発展会は、そこでの気づきを街づくりに活かすとともに、一緒に取り組める施策などがあれば、実施検討します。



横浜市立大学・相良学長からのメッセージ

観光地としても有名な横浜中華街と大学との連携企画は、横浜の今後の発展のためにも、また学生教育のためにも非常に有意義な取り組みと思います。学生達が横浜中華街を自由に散策し、自分たちの目線で課題を捉え、これまでにない発想で企画立案する一連の活動は、社会に出てから「課題を自ら発見し、解決する力」の涵養に大いに役立つと考えています。

このコロナ禍において人の移動が大幅に制限されたことで、観光業は大きな痛手を負っている中、学生たちの視点やアイデアが横浜中華街発展会協同組合の皆様の力になる事を願っております。

一取り組みで得た気づきは、早速街づくりの改善へ繋げています。

●客引きは怖い

学生たちの殆どが怖いと感じていた客引き。かねてから問い合わせもあった課題でしたが、今回あらためてその改善に取り組む必要性を感じました。客引きが横行することで悪いイ



メージが定着し、多くの人が街を敬遠しかねません。街に人が来るからこそ個店も賑わいます。中華街発展会では、注意喚起とともに、パトロールなどでも注視していきます。

●ゴミはどうしたら・・・

ゴミをどこで捨てたらいいのかわからない。特に食べ歩きで出たゴミをどうしたらいいのか困っている学生が大変多かったようです。そこから得た気付きは、横浜中華街では、購入した店舗で引き取ってもらえることが殆ど知られていないということでした。早速各店舗で捨てられることをこまめに伝えてもらったり、わかりやすいPOPなどで訴求してもらうよう働きかけました。また、他の観光地と比較して、ゴミ箱が少ないとの意見もあり、こちらについても最適な改善が図れるよう、行政などとも協議していきます。

●No.1 が氾濫？！

「グルメサイト No.1」「○○ランキング No.1」など、横浜中華街には No.1 が多くて、それが本当かわからない、十年以上前の情報が最近のものにみせてあるなど、消費者目線で No.1 の氾濫は反って怪しく感じるとの意見がありました。No.1 の出典元や選ばれた時期の表示など、情報は正確に、虚偽ではないことを明確に伝える改善が必要だと感じました。

●食べ残しを包む（パオ）する文化

コロナ禍で持ち帰りが一般化する前から、横浜中華街では、生ものなど衛生上の懸念が低いものを除き、食べきれなかった分は、パオ（包んで持って帰る）は当たり前のことでしたが（注：店舗や時期によっては不可）、学生は誰もそのことを知りませんでした。フィールドワークで、中華料理は量が多くて、複数メニューを頼むと 1 人だと残してもったいないから、食べたいけど料理屋さんで食べに行かなかったという学生も少なくなく、パオできることを知ってたら行ったら皆残念がっていました。

私たちにとって当たり前のことは、街の外では当たり前ではなく、これは正に横浜中華街の良い所であり、パオする文化を知っていただくことで、注文数が増えたり、お客様が増える可能性があります。中華街発展会でも、知っていただく施策を実施するとともに、店舗でも、積極的にお客様にお声かけするなど、知っていただく取り組みを推奨します。

その他にも、得た気付きで役立つものは、すぐに取り入れていきたいと思います。

<本件に対するお問い合わせ>

横浜中華街発展会協同組合 担当：石河、入澤 info@chinatown.or.jp

TEL. 045-662-1252 FAX. 045-211-0593

神奈川県横浜市中区山下町 118-2 留日廣東會館ビル 5F www.chinatown.or.jp